

2 7 一署一品運動を利用した 国有林のPR大作戦

岩手営林署 ○鈴木重之
清水野輝夫
工藤圭一

1 はじめに

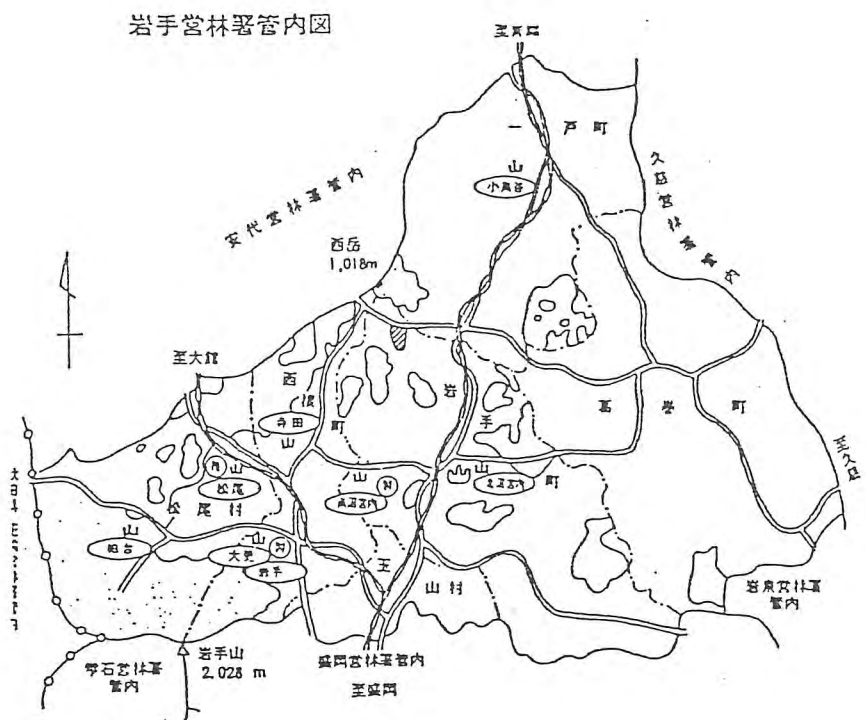
岩手営林署が管轄する29,000haの国有林は、岩手県北部の四町一村にわたり所在している。

管内には、岩手山をはじめ、十和田八幡平国立公園や安比高原に代表される6つのスキー場など、四季を通じて多くの人々が国有林と接しており、昨今の森林に対する関心の高まりがうかがわれる。

しかしながら、昨年当署で「国有林と地域のかかわり」について調査した結果地域における国有林の役割について、一般の人々には、あまり

知られていないことが、改めて浮き彫りにされた。

これまで、一署一品運動の一環として地元産業まつりへ参加するなど、機会ある毎にPRに努めてきたが、国有林について、更に広く一般に理解していただくため、PR作戦に取り組むことにした。



(表-1)

2 経過

1つは管内の国有林標識の老朽化が著しいものや、破損しているものが目につくこと

から、標識を改設することにし、併せて設置場所の見直しも行った。

標識改設にあたり、できる限り、我署の一畧一品運動の技術を生かしたいという現場からの声があり、手造りの標識板にすることを前提に取り組んだ。

まず実行に先がけ、各森林事務所部内の標識の現状を把握したところ、

改設50箇所、新設を要する箇所が64箇所、計114箇所となり、新設箇所が予想以上に多い結果となった。新設箇所が多くなった要因として、以前に比べ一般の人々が自然を求め、森林と接する機会が増えたことに合わせ、国有林における標識類の増設が必要となったためである。

この114箇所から予算事情等を勘案し最終的に必要性の高い順に、100箇所を選定した。

作製にあたり、国有林のPRという観点から、自然景観にマッチしたデザインを心がけた。

材料の板の部分は製品生産の丸太を内部振替し、製材所で挽いてもらい柱の部分は冬山



(写-1) 古い標識



(写-2) 現場での組立て

造林個所から搬出した間伐材を使用した。

デザインに合わせた形づくりとカンナがけは一畝一品作製と併行して行い、文字のデザインと塗装は岩手町子抱自然愛護少年団に協力してもらった。現地での設置は作業の合間を利用し、効率的に実行した。

次に松川自然休養林キャンプ場についてですが、このキャンプ場には温泉、バンガロー等の施設を備えており、年間の利用者数も9200人を超えている状況にある。

この利用者から野外テーブルの傷みが激しいため、利用しづらいとの声があったことから、快適に利用できるよう環境整備をすることにした。

環境整備は、生



(写-3) 完成品



(写-4) テーブルセット

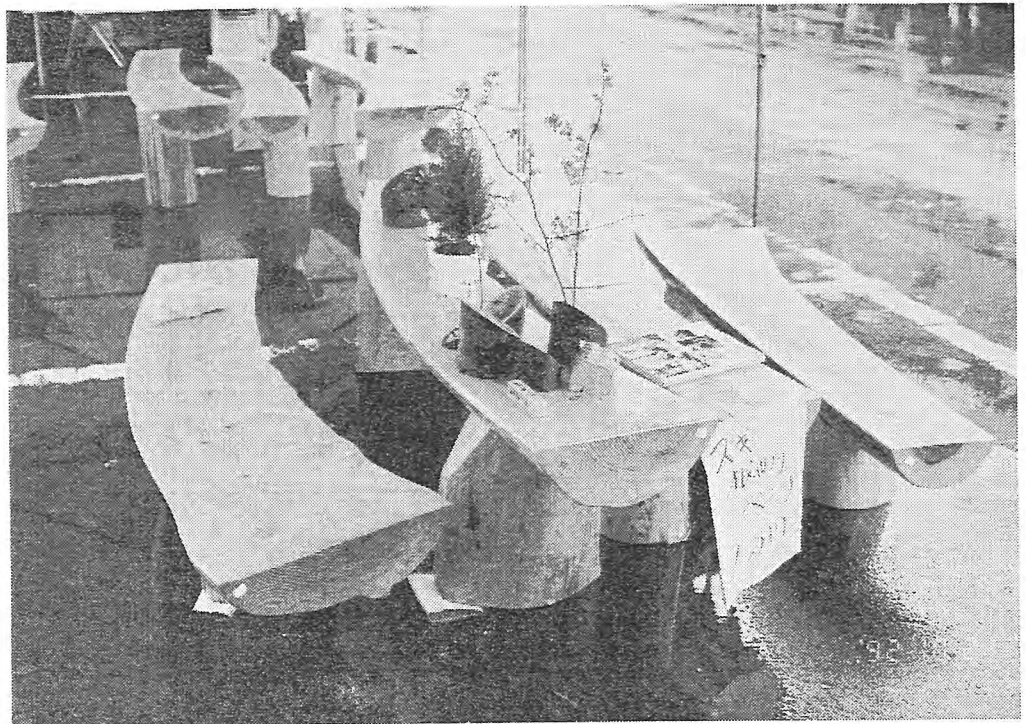
産休止期間中に生産所属の定員内トラクター運転手1名、幹作業職員4名計5名で実行した。

実行順に従って紹介しますと、まず、キャンプ場内の立木により日照が遮られるので抜き切りすることにより、明るさを確保した。

次に、利用者の快適性の確保とキャンプサイトの拡張を図るため、トラクタで整地しながら、岩石や根株を除去した。

さらに雨天になると炊事場付近に水があふれるとの苦情から、側溝を設置するとともに通路に抜き切りした材を利用して階段を設けた。

利用者から一番要望のあったテーブルセットについては、内部振替したスギ、アカマツの丸太を製材し、穴開けやカンナがけは雨天時の一暑一品の作製と併行して行い、現地で組み立てた。



(写-5) 根曲がりベンチ

イスは、冬山生産個所から集めたスギの端材(伐根)を利用し、これも一暑一品と併行し作製した。

尚、併行して作製した成果品については、昨年10月24日~25日に行われた西根町産業フェア「ふれあい市」にも、町から特に要請があり、一昨年に引き続き岩手営林署コーナーを設けた。

当署の一暑一品である木工品の根曲りベンチ、まな板、スリコギ等を出品し、来場の皆さんには、あいにくの悪天候にもかかわらず、大いに木の暖かさと国有林をPRすると共に好評を頂いた。

3 結果考察

今回の取組みにより、地元の人々はもちろん、通常国有林にかかわりのない人々からも、この場所が国有林だと言う声を、多く聞くことができた。

また、職員からも国有林名がはっきり解るようになったと、好評を得た。

更に、山火事防止の標語を入れたことにより、入山者に注意を促すことができたと考えている。

次に松川自然休養林キャンプ場についてですが、今回のキャンプ場整備を行ったことに対し、快適になったとの評判を得ることができた。

ちなみに、3年度に比べ4年度は、利用者数で300人増、収入については利用料改定などもありましたが、約150万円の増収となった。

PR効果

こういう結果になったのは、今回の環境整備が大きく寄与したものと考えられる。

以上、標識の設置、松川自然休養林の整備について申しましたがこれらの取組をとおして、国有林の存在を新たな方法でPRした結果、一般の人々の認識が一層深まったこと。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1)国有林に対しての理解と認識を得た。(2)入山者へ注意の喚起を促すことができた。(3)利用者増、収入増につながった。(4)職務に対する連帯感が生まれた。 |
|---|

(表-2)

又、職員が力を合わせ実行したことにより職員間に連帯感が芽生え、通常業務に対しても積極性がみられるようになった。

これらの結果を踏まえ、国有林内の標識類の増設、自然休養林の施設等の充実、又従来からの一畧一品をとおした、地域の「イベント」への積極的参加により、国有林の存在について、更にPRを進めてまいりたい。